

# 令和2年度公益財団法人山梨県青少年協会事業計画書

## 事業計画

### 基本方針

山梨県から、「県立青少年センター」、「県立愛宕山こどもの国」、「県立愛宕山少年自然の家」、「県立八ヶ岳少年自然の家」、の4施設を指定管理者として管理運営している。現在までの45年を超える施設運営の経験を活かして、本県の児童・青少年健全育成事業など県民福祉の向上に向けた諸事業を進めるとともに、利用者サービスの向上や魅力ある自主事業の実施により、施設の利用率向上による収入の増加を図る。

また、新たな事業展開を図ることにより経営体制を強化するとともに、徹底したコスト削減を行い経費の節減に努め、より安定した運営を目指す

### 事業実施計画

#### 1 法人会計 協会の運営

- (1) 理事会等の運営理事会、評議員会、等の諸会議を開催し事業を推進する。
- (2) 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努める。

#### 2 公益目的事業会計 施設管理運営

##### (1) 県立青少年センター運営事業

青少年が、安心してのびのびと活動できる拠点として、また、個人・各種サークルや団体等の県民の活動や交流の場として、安全で快適にご利用いただけるよう、適切な施設管理を行うとともに、生涯教育の一環として、幅広い世代に対応した主催事業・自主事業を33事業実施する。

令和2年度の事業の取り組みとしては、地域交流事業をより強化していく。これまで青少年センターは近隣地域の学校、企業、自治会等と連携し、信頼関係を構築してきた。この信頼関係をもとに、地域住民向けに多彩なイベントを開催し、より強固な関係を築くとともに、住民同士の交流活動を促進することで防犯や防災、子育てに関するネットワークを形成し、青少年センターが地域コミュニティの拠点となることを目指す。また、県内の青少年問題に各地域の育成団体と連携して対応する「青少年育成山梨県民会議事業」の実施や、甲府市教育委員会と共同して小学生が放課後を安全に過ごす居場所としての「放課後子供教室」の運営を引き続き行い、さらに地域に根差した施設運営を進める。

更に、青少年センター設立50周年の記念事業として幅広い世代が楽しめるイベントを実施し、青少年センターの周知と利用率の向上を目指す。

##### (2) 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家運営事業

こどもの国は甲府盆地を一望することができる、標高428mの広大な愛宕山一帯に広がる広域公園であり、その斜面地を生かした大型遊具やアスレチック、変形自転車広場、ライオンの池、遊歩道などの複合施設を有している。未然の事故防止のため広範囲にわたる巡視、点検整備作業を常日頃効率的かつ効果的に行い、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努める。また、子どもから大人まで幅広い世代が四季折々の美しい景観や緑豊かな里山の自然の良さを感じながらリフレッシュでき、健康寿命の延伸に寄与する快適な環境を提供する。さらに、園内に一体となる少年自然の家では、家庭や学校などの日常生活を離れ、集団宿泊体験学習を中心に、豊かな人間性を身につけさせる自然体験活動の支援とそのプログラム開発を行い、併せて自然体験活動の普及を推進する。

四季を通じて実施する主催・自主事業では、豊かな自然環境を活かし、子育てに不安や悩みを抱える保護者が交流、相談することができる機会や子どもと他の世代との交流など、成長に応じた切れ目ない

支援を行なうことに重点をおく。また、保育所等の指導者に対する研修の機会の提供や、子どもたちが自らを大切に思う気持ちと他者を思いやる心をはぐくめるような多様な自然体験活動を行なう。このような事業を展開する中で、常に安全安心な育ちの場となる施設運営を目指し満足度と利用率の向上に努める。

### (3) 県立八ヶ岳少年自然の家運営事業

青少年が、家庭や学校などの日常生活から離れ、集団宿泊体験により自らを律する精神を学び、自然を身体で確かめる様々な自然に自ら飛び込み、身体の内感を使っての自然体験活動により、自主性や社会的態度を身に付けることで学校生活等の充実に寄与する。

また、利用団体や利用者の活動プログラムを尊重し、子どもたちと指導者双方に意義ある理想的な学習環境づくりと活動支援を行う。

さらに、豊かな自然に恵まれた立地条件を活かし、幼児から親子、一般の皆様を対象とした自然体験、野外炊事、伝承遊び、地域の産物を使った郷土料理作りなど、季節を肌で感じ取れる多様な主催・自主事業を年間26事業実施し、併せて自然体験活動の普及を推進する。

青少年教育施設連携促進ネットワーク協議会を契機に教育施設等と連携することで、より教育的な効果を図る事業運営に努める。

なお、常に安全管理には万全を期すとともに、コスト意識を持ち、安定的かつ経済的に自立した施設づくりに努め、安心と信頼を兼ね備えた快適な環境を提供する。

## 3 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、自動販売機による飲料水の販売等により利用者の支援をする。

安定した経営確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の収入確保と利用率向上を図る。

プラネタリウム番組を他の科学館等に配給する。